

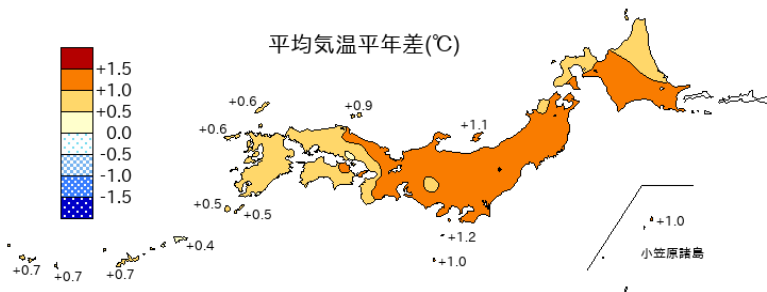
令和2年地球温暖化影響調査レポート（概要）

- 「地球温暖化影響調査レポート」は、都道府県の協力を得て、地球温暖化の影響と考えられる農業生産現場における高温障害等の影響、その適応策等について報告のあった内容を取りまとめたもの。（「農林水産省地球温暖化対策総合戦略（平成19年6月策定）及び「農林水産省気候変動適応計画」（平成27年8月策定）に基づき、平成19年より取り組みを開始。）
- 令和2年地球温暖化影響調査レポートの調査対象期間は、令和2年1月～12月である。

令和2年の気象の概要

気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的にかなり高かった。全国的に暖冬で、東・西日本で記録的な高温、日本海側で記録的な少雪となった。

「令和2年7月豪雨」など7月は東・西日本で記録的な大雨と日照不足となった。



発生報告の多い農畜産物における影響と適応策の実施状況

	影 響 (表の数値は、報告のあった都道府県数を示す)	適 応 策														
水 稲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出穂期以降の高温による白未熟粒が多くの都道府県で発生 ・ 暖冬による虫害が多発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白未熟粒、胴割粒の発生抑制のための水管理の徹底、適期移植・収穫 ・ 高温耐性品種の導入 (作付面積は全国で約15万3千ha、前年度に比べ1.6万ha増加、高温耐性品種の占める割合は11.2%) ・ 穂肥施用等の肥培管理の徹底 														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白未熟粒の発生</td> <td>33</td> <td>36</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>虫害の多発</td> <td>19</td> <td>13</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>			R2	R1	H30	白未熟粒の発生	33	36	31	虫害の多発	19	13	7		
	R2	R1	H30													
白未熟粒の発生	33	36	31													
虫害の多発	19	13	7													
果 樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果実肥大期以降の高温による着色不良・着色遅延、浮皮等が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着色不良・着色遅延対策として、着色優良品種や着色を気にしなくてよい黄緑系品種の導入、着果管理（摘果、被覆） ・ 浮皮対策として、植物成長調整剤の活用 														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぶどうの着色不良・着色遅延</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>りんごの着色不良・着色遅延</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>うんしゅうみかんの浮皮</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>			R2	R1	H30	ぶどうの着色不良・着色遅延	20	20	22	りんごの着色不良・着色遅延	10	7	6	うんしゅうみかんの浮皮	9
	R2	R1	H30													
ぶどうの着色不良・着色遅延	20	20	22													
りんごの着色不良・着色遅延	10	7	6													
うんしゅうみかんの浮皮	9	10	13													
野 菜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫期の高温による着果不良や不良果が発生 ・ 花芽分化期の高温による花芽分化の遅れが発生 ・ 病害や虫害が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着花・着果不良及び不良果対策として遮光資材の活用、細霧冷房 ・ 花芽分化安定・促進のための新品種導入や遮光 														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トマトの着果不良</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>いちごの花芽分化の遅れ</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>			R2	R1	H30	トマトの着果不良	17	14	14	いちごの花芽分化の遅れ	15	11	6		
	R2	R1	H30													
トマトの着果不良	17	14	14													
いちごの花芽分化の遅れ	15	11	6													
花 き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高温による開花期の前進・遅延、奇形花が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開花期安定のためのシェードの活用や電照栽培による日長操作 														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きくの開花期の前進・遅延</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>			R2	R1	H30	きくの開花期の前進・遅延	18	19	23						
	R2	R1	H30													
きくの開花期の前進・遅延	18	19	23													
畜 産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高温による乳量・乳成分の低下や斃死が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛舎の送風・換気や細霧冷房の導入 														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳用牛の乳量・乳成分の低下</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>乳用牛の斃死</td> <td>12</td> <td>15</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>			R2	R1	H30	乳用牛の乳量・乳成分の低下	17	14	14	乳用牛の斃死	12	15	17		
	R2	R1	H30													
乳用牛の乳量・乳成分の低下	17	14	14													
乳用牛の斃死	12	15	17													